

「公益法人らくらく会計 D4」の仕訳

1. 仕訳の方式について.....	2
「らくらく会計」の仕訳概要.....	2
「らくらく会計」の仕訳のルール.....	2
2. 具体的な仕訳例.....	3
日常の仕訳について.....	3
収入（収益）があった場合の仕訳.....	3
支出（経費）があった場合の仕訳.....	3
複合仕訳について.....	3
給与を支給したときの仕訳.....	4
未払金・未収入金・前払金・前受金等の仕訳.....	4
未払金に係わる仕訳.....	4
未収会費・未収入金に係わる仕訳.....	5
前受金に係わる仕訳.....	5
前払金に係わる仕訳.....	6
預り金に係わる仕訳.....	6
固定資産に係わる仕訳.....	7
固定資産の取得.....	7
その他の固定資産の売却及び除却仕訳.....	7
基本財産・特定資産の購入及び売却.....	8
減価償却の仕訳.....	10
長期借入金に係わる仕訳.....	10
長期借入金の発生.....	10
長期借入金の返済仕訳.....	10
退職金に係わる仕訳.....	11
退職金に係わる仕訳（1）.....	11
3. 「新公益法人会計基準」の固有な仕訳例.....	12
用途が指定された寄付金、補助金、土地受贈益等を受けた。.....	12
指定正味財産を一般正味財産へ振り替える。.....	12
基本財産の取得.....	12
基本財産の減価償却仕訳.....	13
内部取引消去の仕訳.....	13
4. 基本財産、特定資産の期首設定について.....	14
5. 決算時の確認事項.....	15

1. 仕訳の方式について

「らくらく会計」の仕訳概要

- 資産・負債科目と損益科目（収益・損益）で仕訳を行います。
- 資金の動きのある取引は、自動的に収支計算書に計上されます。
- 完全な「1取引1仕訳」を実現しています。

次に説明する幾つかの注意点を除くとほぼ普通の商業簿記と同じ仕訳が出来ます。

「らくらく会計」の仕訳のルール

1. 非資金取引は、必ず単一仕訳で行ってください。

減価償却費 1,000 / 車 両 1,000

減価償却費 2,000 / 器具及び備品 1,000

1対N、N対1、M対Nのような複合仕訳を行うと、相手勘定は自動的に資金諸口になって、正常な会計処理が出来ません。

2. 修正伝票は、逆仕訳ではなくマイナス金額で行ってください。

・例) 借入金 が 600,000 円多く計上されていたので、取り消す場合。

現金 -600,000 / 借入金 -600,000

・例) 購入した固定資産の入力ミスが年度末に見つかり、60,000 円減額したい。

固定資産科目 -60,000 / 現金 -60,000

マイナス金額で行う理由は、収支計算書では総額集計になるためです。

3. 複合仕訳は、総勘定元帳を出力した場合に相手科目がすべて“諸口”になりますので、相手科目を明示したい場合は、単一仕訳で仕訳をしてください。

4. 自動按分仕訳は、複合仕訳が出来ません。

(理由) 部門間の自動按分処理は、相手科目が特定されないと正常な按分できないために単一仕訳に直して仕訳をしてください。

5. 新公益法人会計に係わる固有の仕訳は下記で詳細に説明します。

2. 具体的な仕訳例

日常の仕訳について

収入（収益）があった場合の仕訳

- 収入（当期の益）があった場合の仕訳

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	11020 現金	20,000	50190 正会員受取会費	20,000
2	11020 現金	350,000	50290 受取負担金	350,000

支出（経費）があった場合の仕訳

- 支出（当期の損）があった場合の仕訳

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	55110 事／会議費	300,000	11020 現金	300,000
2	55170 事／消耗品費	15,000	11020 現金	15,000

複合仕訳について

- 次のような複合仕訳を行っても構いませんが、相手勘定は“諸口”になりますので、出来るだけ単一仕訳で行ってください。

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	55110 事／会議費	300,000	11020 現金	315,000
2	55170 事／消耗品費	15,000		

- 一枚の伝票に複合仕訳と単一仕訳を混在させることも出来ます。借方金額と貸方金額が一致している場合は単一仕訳となり、不一致の場合は複合仕訳であると判断します。

給与を支給したときの仕訳

- 次のような複合仕訳が出来ます。この場合の相手科目は”諸口”となります。
- 貸方科目を上方に詰めても構いませんが、摘要がそれぞれの仕訳で書けるように重複しないようにしています。
- この仕訳は通常、雛形登録をしておく便利です。

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	55040 事/給与手当	1,000,000			
2	55070 事/臨時雇賃金	200,000			
3			21050	預り金(所得税)	100,000
4			21060	預り金(住民税)	80,000
5			21090	預り金(雇用保険)	3,000
6			11020	現金	1,017,000

未払金・未収入金・前払金・前受金等の仕訳

未払金に係わる仕訳

- 未払金の発生

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	55170 事/消耗品費	4,000	21020	未払金	4,000

- 未払金の支払

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	21020 未払金	4,000	11020	現金	4,000

(補足)

公益法人会計の未払金は収支計算書において現金預金と同等に扱いますので、収支計算書は変化しません。以下に説明する未収入金、前受金、預り金、前受金も同様です。

未収会費・未収入金に係わる仕訳

- 未収会費・未収金の発生

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	11120 未収会費	10,000	50190 正会員受取会費	10,000
2	11130 未収金	30,000	50040 基本財産受取配当金	30,000

- 未収会費・未収金の回収

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	11020 現金	10,000	11120 未収会費	10,000
2	11020 現金	30,000	11130 未収金	30,000

前受金に係わる仕訳

- 前受金の発生

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	11020 現金	40,000	21030 前受金	40,000

- 前受金を収入科目に振り替える

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	21030 前受金	40,000	50190 正会員受取会費	40,000

前払金に係わる仕訳

- 前払金の発生

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	11150 前払金	15,000	11020 現金	15,000

- 前払金の解消

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	56220 管/保険料	15,000	11150 前払金	15,000

預り金に係わる仕訳

- 預り金の発生

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	11020 現金	20,000	21050 預り金(所得税)	20,000

- 預り金の支払

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	21050 預り金(所得税)	20,000	11020 現金	20,000

固定資産に係わる仕訳

固定資産の取得

- 固定資産を取得する仕訳例

収支計算書には取得支出として計上されます。

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 15040 什器備品	200,000	11020 現金	200,000

- 建設仮勘定を使う仕訳

支出時の仕訳

収支計算書に反映します。

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 15060 建物仮勘定	1,000,000	11020 現金	1,000,000

- 建物への振替仕訳

この場合、収支計算書は動きません。

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 15010 建物	1,000,000	15060 建物仮勘定	1,000,000

その他の固定資産の売却及び除却仕訳

- 損金が出た場合・・・簿価 50 万円の車を 30 万円で売却した場合

収支計算書には固定資産売却収入 30 万円が計上されます。

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 11020 現金	300,000	15030 車輛運搬具	300,000
2 65050 什器備品売却損	200,000	15030 車輛運搬具	200,000

- 益金が出た場合・・・・・・簿価 50 万円の車を 70 万円で売却した場合

収支計算書には固定資産売却収入 70 万円が計上されます。

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 11020 現金	500,000	15030 車輛運搬具	500,000
2 11020 現金	200,000	61040 車輛運搬具売却益	200,000

基本財産・特定資産の購入及び売却

基本財産・特定資産の売却は次のようにしてください。

【指定正味財産】

- 指定寄付金で10万円の投資有価証券を購入

借方科目コード		借方金額	貸方科目コード		貸方金額
補助科目コード		消費税区分	補助科目コード		消費税区分
1	12400 投資有価証券(基本財産)	100,000	70100	指/受取寄付金	100,000
	921 指定正味財産				

- 12万円で売却

借方科目コード		借方金額	貸方科目コード		貸方金額
補助科目コード		消費税区分	補助科目コード		消費税区分
1	12400 投資有価証券(基本財産)	20,000	70170	指/基本財産評価益	20,000
	921 指定正味財産				
2	11020 現金	120,000	12400	投資有価証券(基本財産)	120,000
			921	指定正味財産	
3	70250 一般正味財産への振替額	100,000	50330	受取寄付金振替額	100,000
	908 寄付金				
4	70250 一般正味財産への振替額	20,000	57010	基本財産評価損益等	20,000
	912 基本財産評価益・損				

- 7万円で売却

借方科目コード		借方金額	貸方科目コード		貸方金額
補助科目コード		消費税区分	補助科目コード		消費税区分
1	70210 指/基本財産評価損	30,000	12400	投資有価証券(基本財産)	30,000
			921	指定正味財産	
2	11020 現金	70,000	12400	投資有価証券(基本財産)	70,000
			921	指定正味財産	
3	70250 一般正味財産への振替額	100,000	50330	受取寄付金振替額	100,000
	908 寄付金				
4	70250 一般正味財産への振替額	-30,000	57010	基本財産評価損益等	-30,000
	912 基本財産評価益・損				

* 損計上はマイナスで行ってください。

【一般正味財産】

- 10万円の投資有価証券を購入

借方科目コード 補助科目コード		借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード		貸方金額 消費税区分
1	12400 投資有価証(基本財産) 922 一般正味財産	100,000	11020	現金	100,000

- 12万円で売却

借方科目コード 補助科目コード		借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード		貸方金額 消費税区分
1	12400 投資有価証(基本財産) 922 一般正味財産	20,000	57010	基本財産評価損益等	20,000
2	11020 現金	120,000	12400	投資有価証(基本財産) 922 一般正味財産	120,000

- 7万円で売却

借方科目コード 補助科目コード		借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード		貸方金額 消費税区分
1	57010 基本財産評価損益等	30,000	12400	投資有価証(基本財産) 922 一般正味財産	30,000
2	11020 現金	70,000	12400	投資有価証(基本財産) 922 一般正味財産	70,000

減価償却の仕訳

- 減価償却の仕訳

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	55150 事/減価償却費	500,000		15010 建物	500,000
2	55150 事/減価償却費	300,000		15040 什器備品	300,000

注意)

非資金取引は必ず単一仕訳で行なってください。複合仕訳を行うと、相手勘定科目が資金諸口になり、収支計算書に仕訳が反映するようになります。

- 基本財産・特定資産に係わる減価償却の仕訳は後で説明します。

長期借入金に係わる仕訳

長期借入金の発生

- 通常の複式簿記仕訳になります。

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	11020 現金	1,000,000		22010 長期借入金	1,000,000

長期借入金の返済仕訳

- 通常の複式簿記仕訳になります。利息も忘れないように仕訳をしてください。

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	22010 長期借入金	500,000		11030 預金1	500,000
2	56210 管/支払利息	30,000		11030 預金1	30,000

退職金に係わる仕訳

退職金に係わる仕訳（１）

- 新しい公益法人会計基準では、新会計基準別表に取扱が示されています。
- 黄色枠の科目を使って次の例のような仕訳を行うと、収支計算書にも自動計上されます。

	借方	貸方
貸借対照表	退職給付引当資産	退職給付引当金
正味財産計算書	退職給付費用	
収支計算書	退職金（給付）支出 退職給付引当資産取得支出	退職給付引当資産取崩収入

- 退職給付引当金を計上するときの仕訳

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 12210 退職給付引当資産	500,000	11020 現金	500,000
2 56030 管／退職給付費用	500,000	22030 退職給付引当金	500,000

- 退職金を支給するときの仕訳

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 11020 現金	300,000	12210 退職給付引当資産	300,000
2 22030 退職給付引当金	300,000	11020 現金	300,000

【補足】

退職給付引当金に連携する収支科目の“退職金支出”はデフォルトでは、管理費支出に置いています。これを事業費に移動させたい場合は、連番で整列していますので、連番を変更して事業費に移動させてください。

勘定科目(B/S,P/L)		資金収支の科目(C/F)						
連番	科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC	小科目	FlgG	FlgH
	7300	②管理費支出	9	2	0			
	7400 56010	役員報酬支出	0	2	0			
	7500 56020	給料手当支出	0	2	0			
	7600 22030	退職金支出	0	2	0			
	7700 56030	退職給付費用支出	0	2	0			
	7800 56040	福利厚生費支出	0	2	0			

3. 「新公益法人会計基準」の固有な仕訳例

- 新公益法人会計基準は、一般には難解とされていますが、次の4つの仕訳要素がわかれば、わりと理解しやすくなるのではないかと思います。

用途が指定された寄付金、補助金、土地受贈益等を受けた。

- 次のような仕訳になります。

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	11030 預金1	1,000,000	70310 指/受取寄付金	1,000,000
2	11030 預金1	2,000,000	70130 指/受取民間補助金	2,000,000
3	12110 土地 921 指定正味財産	50,000,000	70410 指/土地受贈益	50,000,000
4				

【補足】

3の仕訳は次の2つの仕訳を行っても同一になります。

諸口 / 土地受贈益
土地 / 諸口

指定正味財産を一般正味財産へ振り替える。

- 一般正味財産への振替額の科目には補助科目がありますので、該当科目を選択します。

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	70250 一般正味財産への振替額 902 地方公共団体補助金	1,000	50250 受取補助金等振替額	1,000

基本財産の取得

- 指定正味財産であれば次のように補助科目で“指定正味財産”を選択する。

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	12112 建物 921 指定正味財産	50,000,000	11030 預金1	50,000,000
2				

注) 補助科目で指定と一般の区分を行うと、自動計上されます。

基本財産の減価償却仕訳

- 基本財産である建物を減価償却する場合も建物の補助科目から“指定正味財産”を選択して仕訳を行います。

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 55080 事/減価償却費	300,000	12112 建物	300,000
		921 指定正味財産	
2			

併せて一般正味財産への振替が必要になります。

内部取引消去の仕訳

- 会計区分間において生ずる内部取引高は、正味財産増減計算書内訳表において相殺消去するものとする。また、会計区分間における内部貸借取引の残高は、貸借対照表内訳表において相殺消去するものとする。
- 「あいうえお会計」で販売している消耗品を「かきくけこ会計」が購入した場合

借方科目コード 内取 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分	摘要名1 摘要名2	部門
111020 現金	3,000	50170 ○○事業収益	3,000	かきくけこへ販売	1 あいうえお
255120 事/消耗品費	3,000	11030 預金1	3,000	あいうえおより購入	2 かきくけこ

上記のように仕訳左端の内取にチェックを入れてください。

内訳表では次のように相殺消去されます。

正味財産増減計算書内訳表

2012年04月01日から 2013年03月31日まで

公益法人 ○○会

科目名	あいうえお	かきくけこ	さしすせそ	合計	内消内取消去	計
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
○○事業収益		3,000	0	0	3,000	-3,000
事業収益計		3,000	0	0	3,000	-3,000
経常収益合計		3,000	0	0	3,000	-3,000
(2) 経常費用						
事業費						
消耗品費		0	3,000	0	3,000	-3,000
事業費計		0	3,000	0	3,000	-3,000
管理費						
経常費用合計		0	3,000	0	3,000	-3,000

4. 基本財産、特定資産の期首設定について

新会計基準では、基本財産と特定資産については、正味財産の部に“うち充当額”の金額表示が必要になりましたので、次のように繰越金を設定してください。

期首の繰越金設定

- 初期設定メニュー ⇒ 繰越金設定
- 基本財産と特定資産のうち、指定正味財産か一般正味財産かに分ける必要がある科目は、赤文字として表示されます。行を選択してダブルクリックすると補助科目の箱が表示されます。

code	科目名	期首繰越
12000	2. 固定資産	
12100	(1) 基本財産	
12200	土地	
12300	建物	
12400	投資有価証(基本財産)	60,000,000
12500	基本財産特定預金	
12600	基本財産合計	60,000,000
13000	(2) 特定資産	

この補助科目に期首の金額を設定してください。

コード番号	補助科目名	期首繰越
921	指定正味財産	50,000,000
922	一般正味財産	10,000,000

次に指定正味財産の部に財源を設定してください。

30000	Ⅲ 正味財産の部	
31000	1. 指定正味財産	
31010	国庫補助金	
31020	地方公共団体補助金	
31030	民間補助金	
31040	国庫助成金	
31050	地方公共団体助成金	
31060	民間助成金	
31070	受取負担金	
31080	寄付金	50,000,000
31090	受贈土地	
31100	受贈投資有価証券	

青字は自動計算されますので、ご確認ください

31990	指定正味財産合計	50,000,000
32020	〈うち基本財産への充当額〉	50,000,000
32030	〈うち特定資産への充当額〉	
35000	2. 一般正味財産	
35010	一般正味財産	
35020	一般正味財産合計	
35040	〈うち基本財産への充当額〉	10,000,000
35050	〈うち特定資産への充当額〉	
39000	正味財産合計	50,000,000
39010	負債及び正味財産の部合計	50,000,000
39020		

5. 決算時の確認事項

3大ポイント

- ① 貸借対照表の期首金額の確認及び、正味財産増減計算書の正味財産期首残高と前年度決算の正味財産期末残高の金額が一致しているか。
- ② 試算表にて貸借対照表・正味財産増減計算書・収支計算書のそれぞれ、下に表示される赤い二つの箱の数字が一致しているかを必ず確認してください。
複数の経理区分がある場合はすべての区分及び合計でも確認してください。

借方合計	250,139,359	正味財産合計 (B/S)	247,090,457	流動資産－流動負債 (B/S)	37,438,475
貸方合計	250,139,359	正味財産合計 (P/L)	247,090,457	次期繰越収支差額 (C/F)	37,438,475

- ③ 現預金（積立金も含む）が残高証明書と一致しているか必ず確認してください。
補助科目を設けている場合は補助科目ごとに確認をして下さい。

その他の確認事項

未収入金の残高は正しいか。	
前払金の残高は正しいか。	
立替金の残高は正しいか。	
その他、流動資産の残高は正しいか。	
諸口・仮払金・仮受金の残高は0円か。 これらの科目は年度内の清算が必要です。	
未払金の残高は正しいか。	
前受金の残高は正しいか。	
預り金の残高は正しいか。 特に社会保険料または私学共済の残高チェックをして下さい。	
その他、流動負債の残高は正しいか。	
借方の積立預金と貸方の積立金または引当金が一致しているか。	
固定資産について 当年度に取得した固定資産を資産計上しているか。 上記資産を固定資産台帳へも登録をしているか。 減価償却費の計上をしているか。 固定資産の廃棄があった場合の処理をしているか。 固定資産台帳の期末帳簿価額と貸借対照表の固定資産価額が一致しているか。	

伝票の点検

仕訳入力画面の伝票点検にて仕訳の点検を行ってください。

仕訳入力	仕訳検索	仕訳点検						
伝票No	枝番	日付	借方科目コード	借方補助科目	貸方科目コード	貸方補助科目	メモ	部門

仕訳の点検

「点検」ボタンを押してください。リストアップされなければ正常です。

勘定科目コード早見表

以下の二桁の数字を打ってエンターキーを押すとその科目の先頭に飛びます。間違えた場合は、その場でもう一度新しい数字を打ってエンターキーを押してください。

11:流動資産

12:固定資産

21:流動負債

22:固定負債

31:正味財産

50:一般正味財産の部

50:経常収益

55:経常経費(事業)

56:経常経費(管理)

61:経常外収益

65:経常外費用

70:指定正味財産増減の部